



自然の良さを知ってもらいたい ～第2回おなしホテルまつり～

6月12日、小梨スポーツ広場で小梨地区協働のまちづくりネットワークが第2回おなしホテルまつりを開催しました。地域の人たちが手づくりでつくるお祭り。今年も工夫を凝らしたおもてなしで来場者を楽しませてくれました。



「天気がどうかかな。ホテルが乱舞すればいいんじゃないけど...」

心配そうに、夕暮れの空を見つめるのは、おなしホテルまつり実行委員長の渡橋昭二郎さん。小梨地区協働のまちづくりネットワークでは、昨年「子どもたちに自然の良さを実感してもらいたい」「小さな生き物が安心して暮らせる環境を守りたい」という思いのもと、ホテルまつりを開催しています。

今年はお来場者へのプレゼントのため、初めてポン菓子づくりに挑戦。会場では、子どもたちがおいしそうにポン菓子をほおぼる姿も見られました。辺りが暗くなった夜8時、ホテル観賞がスタート。来場者が川沿いを歩いていると、所々で光が舞います。来場者からは、「ほら、あそこ！きれいじゃね」という声。みんなの思いに、ホテルも応えてくれたのかもしれません。

実行委員からは、「次はこうしたいね」などの声も聞かれました。来年の開催が待ち遠しいですね。

中学生が声に思いを込めて

6月19日、市民館で第7回「少年の主張」竹原市中学生話し方大会が開催され、市内の中学生12人が学校や家庭で見つめ直した自分のこと、社会のために考えること、身近な人への愛情など、独自のテーマで思いを発表しました。2年連続出場となった忠海中学校3年の金光媛香さんは、発表を終えて、

「声の強弱が課題でしたが、今年は良くなったように思います。」と感想を話します。また、竹原中学校3年の下岡朱音さんは、「度胸試しで、職員室にいる先生たちの前で練習したので、今日は落ち着いて発表できました。」と、先生の協力ですっきり発表できたことを教えてくれました。今大会では、県大会への出場候補者2人が決まりました。その一人、堀川美菜海さんは、「私の声」という題で、声が出なくなった8か月間で周りの愛情に気づき、喜びを感じたこと、そして自分自身も誰かを支える仕事に就きたいことを発表しました。同じく候補者の黒川あずささんは、「スタートライン」という題で、家族や先生の影響で教師になる夢を描いていること、そしてその実現のために課題を克服していかねればならないことを発表しました。12人の力強い声。その声には未来への前向きな思いが込められていました。



寄能 俊一くん

下岡 朱音さん

浅野 萌依子さん

黒川 あずささん

金光 媛香さん

中塚 元基くん

木原 万悠子さん

吉中 大知くん

堅本 成敏さん

友廣 美咲さん

堀川 美菜海さん

西村 祐平くん